

令和3年度事業概要

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等） 769 点

寄贈資料受入れ総数（同上） 8,478 点

9,247 点

整理・保存 収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等

閲覧 利用者 延 1,161 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

事業名	実施時期 (日数)	観客数 (人)	展覧会の概要
常設展 北海道の文学	通年 (186日間)	2,312	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料約 1,350 点を紹介。 (◎展示構成を次頁に掲載。)
特別展 太宰治 - 創作の舞台裏	4/17(土) ～ 4/30(金) (12日間)	735	太宰治は、青森県金木村に、大地主の六男として生まれた。破滅的な生活を送りながらも 39 年の短い生涯において生み出された数々の名作は、時代を超えた感性をそなえ、幅広い読者を得ている。本展では、日本近代文学館が所蔵する「太宰治文庫」を中心に厳選した直筆原稿やノートなどの資料により、作品成立にいたるまでの「創作の舞台裏」を紹介した。
特別展 天災地変人禍に抗して - 北海道の災害と文学 -	7/13(火) ～ 8/22(日) (36日間)	959	2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から 10 年が経過した。近年は「過去に例を見ない」台風・集中豪雨なども続発している。北海道の歩みも常に災害にさらされてきた。地震・津波・台風・豪雨・噴火などの天災地変に加えて、地理的に過酷な自然環境、近代化を急ぐゆえの人為的惨禍に多くの命が失われてきた。本展では北海道の災害の記録を振り返るとともに、被災の現実に向き合い、多彩な作品へと結実させてきた表現者たちの営為を紹介した。
ファミリー文学館 彫り続けた北の自然 - 絵本画家・手島圭三郎の 40 年	8/28(土) ～ 10/17(日) (44日間)	2,825	北海道に生まれ、北海道の自然を木版画に彫り続けた手島圭三郎の 40 年の足跡を振り返った。日本絵本賞を受賞した『しまふくろうのみずうみ』や、幻想的な『ふぶきのとり』など豊かな北の生き物たちへの生の賛歌をお楽しみいただいた。
特別展 小説挿絵の魅力 - 文芸作品に伴走して	10/30(土) ～ 12/19(日) (45日間)	1,504	新聞や雑誌などの連載小説はじめ、文芸作品にはさまざまな挿絵が添えられている。挿絵は物語の一場面を図示するとともに、読者のイメージを広げるなど重要な役割を担うものである。洗練された線描で人物の息づかいや臨場感を生き生きと伝えるすぐれた挿絵には、画家たちの豊かな感性が示され美術作品としても高く評価されている。本展では、戦後から現代までの新聞連載小説につけられた数々の挿絵原画に焦点をあて、肉筆原稿や書籍などの各種資料と対比しつつ、文芸作品に伴って生み出された挿絵の魅力にさまざまな角度から迫った。
特別展 「よみがえれ！ とこしへの加清純子」 再び	1/22(土) ～ 3/21 (月・祝) (51日間)	2,338	渡辺淳一『阿寒に果つ』のヒロインのモデルとして知られる加清純子は、天才少女画家として注目され、さらに同人誌に鮮烈な小説や詩を発表。しかし突如、阿寒山中で 18 歳の生涯を閉じる。2019 年の加清純子展に続き、今回初公開の絵画 14 点を加え、その希有な才能、第二次大戦後の反権威世代の青春を改めて見つめ、併せて、姉の作品を守り伝えた弟・詩人の暮尾淳の人間味あふれた抒情詩の世界を紹介した。

【常設展アーカイブ】

- ・第1期展示 [4月10日(土)～4月30日(金)]
文学者たちの愛した品々
船山馨、中沢茂、原田康子、森田たまなど、作家たちの愛用品及び文学資料を展示。
- ・第2期展示 [7月13日(火)～10月17日(日)]
小山内龍が遺した漫画・絵本・挿絵の世界
函館生まれの漫画家・絵本画家の短いながら、確かな足跡を遺した作品群を紹介。
- ・第3期展示 [10月22日(金)～12月26日(日)]
文学者たちの色紙
当館所蔵の豊富な資料から、「色紙」に注目し各ジャンルの中から紹介。
- ・第4期展示 [1月19日(水)～3月13日(日)]
有島武郎の「星座」
明治の札幌農学校の学生たちを描いた未完の小説「星座」の世界を紹介。

※特別展「太宰治－創作の舞台裏」(4月17日～6月6日)と特別展「天災地変人禍に抗して－北海道の災害と文学－」(6月9日～8月15日)、常設展アーカイブ「文学者たちの愛した品々」(4月10日～7月4日)は、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館等のため、会期を縮小及び変更した。

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良ほか〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」原稿、北方謙三「林蔵の貌」原稿、高倉新一郎『覆刻札幌農学校』 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」原稿、石川啄木「雲は天才である」原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」原稿、森田たま「きもの博士」原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」原稿、久保栄「火山灰地」原稿、本庄陸男「逆流」原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」原稿、中村武羅夫色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」原稿、石塚喜久三『花の海』、坂本直行カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」原稿、風巻景次郎「札幌地理学」原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」原稿、李恢成色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆)、高橋揆一郎「『伸子』覚え書き」原稿 ◆変転する現代 渡辺淳一「リラ冷えの街」原稿、北海道ゆかりの芥川賞・直木賞受賞作家と作品 ◆文学マップ「小説の中の北海道」

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

知里幸恵、金成マツ、金田一京助、知里真志保、バチェラー八重子、森竹竹市、萱野茂、違星北斗、鳩沢佐美夫

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元「北の墓標」原稿、吉村昭「北天の星」原稿、李恢成『サハリンへの旅』、寒川光太郎「(オロコ族)」原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」扁額、小熊秀雄「裸婦」原画 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二月」原稿、和田徹三「命」原稿、河邨文一郎「オホーツク」原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修色紙

〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井広治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その

主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、齋藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 齋藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか ◆俳句の現代 鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治より昭和（前期）まで 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西島〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和20年代より平成7年まで 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆現在の活動状況 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

III 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担事業。※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期（日数）	目標観覧（参加）者実績数（人）	観覧（参加）者実績数（人）	観覧（参加）率	備考
講演会・セミナー・講話等	文芸講演会Ⅰ「太宰治の『右大臣実朝』を考える」 講師：工藤正廣（当館館長）	5月8日（土）	20	中止		「太宰治」展 関連事業
〃	文芸講演会Ⅱ「太宰治 防空壕・はやり歌幻想」 講師：中澤千磨夫（北海道武蔵女子短期大学教授）	5月16日（日）	20	中止		〃
〃	朗読会「太宰治を読む」 朗読：村井裕子（フリーアナウンサー）、藪淳一（〃）	5月30日（日）	20	中止		〃
〃	上映会「真白き富士の嶺」	5月23日（日）	20	中止		〃
〃	見どころ解説 講師：当館学芸員	4月22日（木） 5月20日、27日、6月3日 中止	20	18	90.0%	〃
〃	講演会1「災害と社会」（オンラインを含む） 講師：外岡秀俊（ジャーナリスト、作家） （対面及びオンライン実施）	7月22日（木・祝） 7月30日（金）～8月22日（日）	20	53	265.0%	「天災地変人禍 に抗して」展 関連事業
〃	講演会2「記憶と記録の北海道災害史」 講師：合田一道（ノンフィクション作家）	7月23日（金）	20	21	105.0%	〃
〃	朗読会「『石狩平野』と『泥流地帯』を味わう」 朗読：安藤千鶴子（朗読表現講師）	7月25日（日）	20	23	115.0%	〃
〃	シリーズ講座「船山馨と石狩川洪水」ほか 講師：谷口雅春（ライター・エッセイスト）ほか	7月31日（土） 7月18日、8月15日 中止	40	16	40.0%	〃
〃	講演会「北の自然と私の絵本」 講師：手島圭三郎（絵本画家）	9月4日（土）	25	24	96.0%	「ファミリー文学館」展 関連事業
〃	朗読とハーブで綴る「手島圭三郎の絵本の世界」 出演：北のやまねこ朗読倶楽部、熊井芳美（ハーブ奏者）	10月2日（土）	25	20	80.0%	〃
〃	読み聞かせ「手島圭三郎 北の自然と生き物たち」 出演：当館職員	10月17日（日）	25	14	56.0%	〃
〃	文芸サロン「日本画家の私が描く挿絵」 講師：羽生輝（日本画家、本展出品作家）	11月6日（土）	25	26	104.0%	「小説挿絵の魅力」展 関連事業
〃	特別講座「小磯良平の小説挿絵の魅力」 講師：金澤聡美（小樽芸術村学芸員）	11月21日（日）	25	22	88.0%	〃
〃	上映会「古都」	12月11日（土）	25	26	104.0%	〃
〃	見どころ解説 講師：当館学芸員	11月18日（木）、25日（木）、 12月2日（木）	25	14	56.0%	〃
〃	オンライン・オープニング・セレモニー	1月22日（土） ～3月21日（月・祝）	0	760		「『よみがえれ！ とこしえの加清 純子』再び」 展関連事業

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率	備考
講演会・セミナー・講話等	記念講演会1「わたしの記憶-加清純子の時代」 講師：荒巻義雄(SF作家)(オンライン実施)	2月1日(火) ～3月21日(月・祝)	25	177	708.0%	「よみがえれ！ とこしえの加清 純子」再び」 展関連事業
〃	記念講演会2「淳一と純子-1950年の札幌の青春を歩く」 講師：谷口孝男(北海道文学館理事)(収録動画及びオンライン実施)	2月11日(金・祝) 2月22日(火)～3月6日(日)	25	89	356.0%	〃
〃	記念講演会3「加清純子作品の保存修復の実際」 講師：土屋裕子(東京藝術大学保存修復油画研究室教授) (オンライン実施)	2月20日(日)	25	17	68.0%	〃
〃	朗読会「加清純子をめぐって」 朗読：宮下郁子(朗読講師)	3月5日(土)	25	25	100.0%	〃
〃	上映会「もうひとつの『阿寒に果つ』」	3月11日(金)、3月12日(土) 各日2回上映	80	95	118.8%	〃
〃	見どころ解説 講師：当館学芸員	2月17日(木)、 24日(木)、3月3日(木)	20	29	145.0%	〃
夏休み文学道場	「中・高生のための創作講座」(オンライン開催)	7/28(水)、8月11日(水)	30	7	23.3%	
小・中・高生短歌コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、当館ロビーに作品展示	募集7月1日(木)～9月7日(火) 展示12月4日(土)～1月16日(日)	6,200	6,087	98.2%	
ファミリー文学館	ワークショップ「箱の中に北の自然をつくろう！」	9月20日(月・祝)	100	中止		
わくわく子どもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	6回開催(9回中止) 10/3,11/7,12/5, 12/12,12/19,3/6	450	57	12.7%	
映画鑑賞会	「風と樹と空と」	5月2日(日)	50	中止		
映画鑑賞会	「ラストゲーム 最後の早慶戦」	10月10日(日)	50	17	34.0%	
映画鑑賞会	「東京公園」	11月28日(日)	50	24	48.0%	
映画鑑賞会	「どろ平太」	2月13日(日)	50	19	38.0%	
市町村連携事業「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	19市町村19会場	1,200	584	48.7%	
市町村連携事業「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	3市町村3会場	2,000	11,401	570.1%	
文字・活字文化の振興事業	講演会「心を癒やす短歌」 講師：田中綾(北海学園大学教授)	10月31日(日)	60	24	40.0%	
古典の日記念朗読会	朗読：堀きよ美(カムイプロジェクト代表) 演奏：黒田拓(薩摩琵琶奏者)、村場踊(乱拍子)	11月3日(水・祝)	60	25	41.7%	
月例朗読会	朗読：朗読表現 ゆうの会 ほか	5回開催(5回中止) 10/14,11/11,12/9, 2/10,3/10	500	117	23.4%	
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2021」 展示室の夜間開館、朗読会、手作りコーナー等を実施	7月16日(金)	200	オンライン参加		
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(186日間)	2,400	1,161	48.4%	
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(186日間)		144		
負担金事業計			13,900	21,136	152.1%	
※ 文学館カレッジ	・北海道文学アラカルト、児童文学創作教室Ⅲ、絵本を学ぼう、生涯読書会の4講座	6～3月	450	223	49.6%	
※ 文学館カレッジ講演会		5～3月	100	中止		
※ ロビーコンサート		11月1日(月)～7日(日)	100	中止		
※ 中島公園 ぶんがく縁日	同人誌・図書等のフリーマーケット、講演会等	10月9日(土)、10日(日)	100	中止		
※ ぶらり札幌文学散歩	身近な土地と文学の関わりを解説	6月、9月、10月	30	中止		
※ 文学館まつり	開館記念朗読会「宮沢賢治の世界を朗読とギター演奏で…」	9月23日(木・祝)	150	23	15.3%	
※ ロビー展示	文学への関心等を促すため収蔵品資料等を展示	4/10～4/30、 7/13～7/25、 8/1～8/31、 9/8～11/14、 1/22～3/13 全5回	0	3,560		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(186日間)	100	13	13.0%	
※ 文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間	600	80	13.3%	
財団企画事業計			1,630	3,899	239.2%	
	合計		15,530	25,035	161.2%	

Ⅳ 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「太宰治－創作の舞台裏」展関連資料調査
- ② 特別展「天災地変人禍に抗して－北海道の災害と文学－」展関連資料調査
- ③ ファミリー文学館「ファミリー文学館 彫り続けた北の自然－絵本画家・手島圭三郎の40年」展関連資料調査
- ④ 特別展「小説挿絵の魅力－文芸作品に伴走して」展関連資料調査
- ⑤ 特別展「『よみがえれ！とこしえの加清純子』再び」展関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度のファミリー文学館「花・彩々－文学の中に咲く－」展関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「地図と文学の素敵な関係」展関連資料調査
- ⑨ 次年度の特別展「金子みすゞの世界」展関連資料調査
- ⑩ 次年度の特別展「歿後10年吉本隆明－廃墟からの出立」展関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句」展関連資料調査

Ⅴ 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

- ① 中川町教育委員会
斎藤茂吉記念第28回中川町短歌フェスティバル
(令和3年6月1日～10月29日 中川町)
- ② 特定非営利法人 絵本・児童文学研究センター
第25回文化セミナー「明日の物語」
(令和3年11月23日 小樽市民ホール)
- ③ 市立小樽文学館
生誕120年 詩人・沙良峰夫展
(令和3年10月2日～11月28日 市立小樽文学館)
- ④ 札幌大学熊谷ユリヤ研究室
朗読とハーブ～祈りと希望をフィギュアスケート・メロディーにのせて
(令和3年11月30日 札幌市時計台ホール)
- ⑤ 札幌大学熊谷ユリヤ研究室
セント・パトリックス・デー 朗読とハーブ
(令和4年3月17日 札幌市時計台ホール)

Ⅵ 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催をPRするため、新聞紙上で有料広告のほかTVスポットCMを行った。
- ② 「北海道文学館報」第125号(5月28日付)、第126号(10月1日付)、第127号(12月2日付)、第128号(3月4日付)を発行した。

Ⅶ 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「天災地変人禍に抗して－北海道の災害と文学－」展図録の刊行
- ② 特別展「小説挿絵の魅力－文芸作品に伴走して」展図録の刊行
- ③ 特別展「『よみがえれ！とこしえの加清純子』再び」展図録の刊行

Ⅷ その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入
令和3年8月31日～9月7日(6日間)、実習生4名
令和4年1月25日～2月1日(6日間)、実習生3名